

令和6年度 第1回三条市こども未来委員会会議録	
日 時	令和6年5月29日（水）午前10時00分～11時25分
場 所	三条市役所栄庁舎3階 大会議室
出席者	出席委員：真壁委員長、佐藤副委員長、福田委員、山田委員、近藤委員、宮島委員、森山委員、山崎委員、石塚委員、金子委員、高橋委員 欠席委員：山村委員、栗山委員、与齊委員、工藤委員 事務局：平岡教育部長、小林子育て支援課長、小林課長補佐、相場子ども家庭サポートセンター長、飯田総合支援係長、石坂発達応援室主査、草野幼児・児童係長、五十嵐子育て支援係長、石田主任 傍聴者：なし 報道機関：株式会社三條新聞社
委 員 会 内 容	
	【次第】 1 開 会 午前10時開会 2 あいさつ 平岡教育部長より挨拶 3 委員及び事務局紹介 名簿に従い出席委員及び事務局が挨拶 4 議 事 （1）委員長及び副委員長の選任について 委員長に真壁委員、副委員長に佐藤委員を選出 （2）令和5年度子育て支援推進状況報告書（「すまいる子ども・若者プラン」）について （小林課長補佐） 報告に先立ち、「第2期すまいる子ども・若者プラン」の概要について、冊子に基づき説明 （小林課長） 令和5年度子育て支援推進状況報告書（「すまいる子ども・若者プラン」）について、配布資料に基づき説明 【質疑】 真壁委員長 承認は、「第2期すまいる子ども・若者プラン」の報告書に関する承認を委員からもらうのか、それとも第3期プランに盛り込んだ方がよい内容についても、意見を頂戴した方がよいのか。 小林課長 「第2期すまいる子ども・若者プラン」の報告書に関する承認、不承認を御判断いただきたい。第3期プランに関する御意見は次の未来委員会で頂戴する予定としている。 宮島委員 このプランで設定されている目標値は毎年変わるのか。 また、「子育てに幸せを感じている人の割合」が99%という目標値であるが、理想値を目標値としているのか。目標値の在り方を伺いたい。

小林課長	第1期プランの目標値をほとんど達成できなかったことから、第2期プラン策定時に第1期プランの目標値をそのまま第2期プランの目標値とした。先ほど宮島委員から御指摘のあった「子育てに幸せを感じている人の割合」について、第1期プランを策定する前に実施したアンケート調査の結果が97.7%であった。そのため、第1期プランの目標値を99%とした。第2期プランを策定する前に実施したアンケートでは83.8%まで落ちたが第1期の目標値を達成できなかったことから第2期の目標値も99%とした。
真壁委員長	「何人」や「何件」といった目標値が設定されているが、子育て人口が減少しているので目標値を達成することが難しいのではないかと。
小林課長	御指摘のとおりだと思う。第2期プランの目標値については「何人」や「何件」という目標値が設定されているところがあるが、第3期プランについては目標値をどのように設定したらよいかということも含めて委員の皆様から意見を頂戴したいと思っている。
石塚委員	プランの成果指標8（保育が充実していると思う人の割合）と9（三条市が子育てしやすいまちになったと思う人の割合）の目標値と実績値の乖離が大きいと感じた。平成30年度の実績が33.4%、24.7%であるにも関わらず、なぜ、70%に目標値を設定したのか。
小林課長	第1期プランを策定する前に実施したアンケート調査で「三条市が子育てしやすいまちになったと思う人の割合」については52.3%、「保育が充実していると思う人の割合」については57.7%という結果であった。そのため、目標値を70%に設定した。 【異議なく承認】 4 その他
高橋委員	市役所ではPDCAサイクルで回していると思うが、プロジェクトの目的は現状の課題に対してどれくらい効果を上げられるかだと思う。 家計の負担の軽減、子どもたちの発育、子どもの保護者の仕事の問題が複雑に入ってきてる。市役所は力を入れてやっているが、第2期プランのプロジェクトの継続の取組を見てもらうと分かるが、市役所単体で課題解決することは限界がきている。大切なのはミッションの中に、企業や地域の方をいかに参画させるかというプレイヤー側に立つ人たちをいかに育成できるかという視点を取り入れることだと思う。その視点がないと、第3期プランについても同じような取組を入れてそれが増えた、減ったという議論にしかない。時間の無駄なのでやめてほしい。私自身はお母さんの時間作りのために「子どもの居場所」を作っている。まずは、民間を巻き込むために市がやっている事業や考えていることを啓蒙する活動が必要。その後、市がやろうとしていることを実行できるプレイヤーを育てていくことが必要だと思うがいかがか。

小林課長	委員のおっしゃるとおり市役所だけでできる取組は限られている。例えば仕事のしやすさで言えば、まずは企業の意識が変わらないといけないと思う。民間への意識付けも重要だと思っている。民間との連携についても議論して第3期プランに盛り込んでいきたい。
高橋委員	企業、市民、地域の人たちをプレイヤーとして育成していくのが大切。子育てしやすい環境づくりについては、私自身は「子どもの居場所づくり」ではなくお母さんの時間作りだと思って活動している。 市がやっていることを理解しているプレイヤーを育成するということを盛り込んだ第3期プランを作成してほしい。 県内6市町村から、私が代表を務めている三条ベースの仕組みを取り入れたいと要望があり一緒に仕事をしている。障がい者福祉・高齢者福祉・児童福祉は一緒にやっけていかないとうまくいかないというのが私自身の研究成果。三条市に居るのに、三条市と一緒に仕事をしなかったのは私の落ち度。是非、活用いただきたいと思う。
平岡部長	先ほどの御意見、誠に同感であり、ありがたいと思って聞いていた。社会全体を地域で支えていかなければならない、行政だけでやっていく時代ではないということも同感。第2期を振り返ると、委員御指摘の部分はⅤの「子ども・子育て応援社会プロジェクト」であると思うが取組が脆弱であり、考え切れなかった部分であると反省している。第3期プランについては、そういった側面も含めてしっかり考え策定していきたいと思っているので、是非、御意見をお願いしたい。三条市にいらっしゃるのに三条市が一番遅かったというところについては、私も反省している。プランの報告の中で何度か触れた「子どもの居場所」については、委員からは「お母さんの時間作り」との話があったが私どもとしては「子どもを真ん中にする」という視点である。 これまでの反省も踏まえ「子どもの居場所」も第3期プランの重要な視点になると思っている。皆様のお知恵を拝借したい。
真壁委員	事務局からその他として何かあれば、お願いしたい。
小林課長	令和6年度三条市こども未来委員会のスケジュールについては、今回を含めて6回の開催を予定している。日程については、委員長と調整し後日案内させていただく。お気付きの点があったら、いつでも子育て支援課に連絡をいただきたい。
金子委員	日程について、事前に年間スケジュールを立てていただくことは可能か。
小林課長	委員長と何回目までの日程を決められるのかを含め調整し、決まり次第、早めに連絡させていただく。

(午前 11 時 25 分閉会)